

学ぶ楽しさを実感させる学習指導の工夫

－地理的分野の授業実践から－

社会科 菊地明男

1 はじめに（課題設定の趣旨）

本校の共同研究では、学習意欲を高め、学ぼうとする態度を育成することにより学力の向上を図ろうと考えた。そのための切り口として、「学ぶ楽しさ」に重点を置き、それを実感させる授業へと改善していくことを研究の方策とした。社会科を学ぶ楽しさを抽出し、整理してみると、学習内容の楽しさ、学習活動の楽しさ、生活に役立つ楽しさなど多岐にわたっていると考えられた。それらの中から社会科・地理的分野という特性を考慮し、次の3点を研究の重点として地理的分野の授業改善を進めてきた。

(1) 学習過程における生徒への「ゆさぶり」による楽しさ

この場合の「ゆさぶり」とは、地理的事象に対する既存の知識が覆されたり、複数の相容れない思考基準に気付いたりすることによってもたらされる知的好奇心や探究衝動を駆り立てることである。このような「ゆさぶり」により、生徒に学ぶ楽しさを実感させ、学ぶ意欲を高めることができると考えた。

(2) 地理的分野固有の考え方を系統的に学習させることにより、生徒が学ぶ価値や自己有能感を実感する楽しさ

様々な単元で活用できる「地域区分」や「立地」などの考え方を理解させ、後のいくつかの単元でそれを生かした系統的な学習を展開することにより、地域的特色を見出す方法や地理的事象の見方、考え方を身に付けさせることを意図した。実社会の様々な地理的事象を分析する力が身に付いたことを実感させることにより、自己有能感を持たせ、意欲を高めることが期待できると考えた。

(3) 学び方を習熟させることにより、生徒が成就感を実感する楽しさ

ここで言う学習方法とは、課題設定・追究の方法、様々な形態での話し合い活動等である。それらを意図的に年間指導計画や単元計画に組み入れ、習熟させていくことで、自ら学ぶ力を育成するとともに、他との関わりの中で学び合いの楽しさを実感させることができる。課題学習を最後までやり抜く経験を積むことで成就感を持ち、総合学習などとも関わる広い意味での学ぶ意欲が育成できると考えた。

以上の3点を考慮することで、地理的分野の学習における学ぶ楽しさを実感させ、学ぼうとする態度の定着を図ろうと考えた。

2 学ぶ楽しさを実感させる地理授業の実践事例

上記の3点を重視し、一昨年から改善してきた授業の実践例をいくつか掲載する。上記3点の中で何を中心に工夫しているかを各事例の冒頭で説明するとともに、単元指導計画の指導上の留意点において具体的に太字と番号で示す。

1 事例1 学ぶ価値を実感させる地域区分の学習

(1) 題名 「日本の地域区分」

(2) 学ぶ楽しさを実感させるための中心的な工夫

ここでは、地理的分野の学習に深く関わる「地域区分」の考え方を、生徒の知的好奇心を刺激しながら様々な指標となる事象を発見させる活動を通して身に付けさせる。以後の地理の学習に活用できるように十分に理解させ、実際に活用させていく中で学ぶ価値を実感させることを意図した。

(3) 小単元計画と学ぶ楽しさを実感させるための手だて

	学 習 内 容 ・ 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	1 「日本を2～3の地域に区分しよう」 ・日本の7地方区分をもとに3つに区分する境界線を考え、形式的な地域区分についての説明を聞く。 ・図書室の本や地図帳、資料集から地域区分をするために活用できる資料を収集する。 ・収集した資料をもとに、区分案を作成する。	・日本を簡単な指標で区分して みることに重点を置く。 ・機能地域に区分できるような 指標がわかる資料をあらかじめ 準備しておく。 ・グループごとにおもしろい視 点で区分しているものを選び出 し、発表させる。
2	・前時に作成した区分案の中から、教師に指定された2つの区分図について、その根拠となる指標を挙げながら発表しあう。 ・同じような区分のしかたをしている地図をまとめる。 ・地域区分の考え方について説明を聞く。	・区分のしかたの違いで形式地域・等質地域・機能地域にまとめられることや、その活用法を説明する。(2)
3	2 「大小さまざまな地域区分の特色を考えよう」 ・関東地方を例に、部活動の大会の範囲、天気予報等で区分される範囲などを収集し、それぞれがどのような目的で活用されるかを考える。 ・中部地方の3つの地域区分を示し、地形や気候の資料をもとに区分の理由を考える。	・生活と関連した身近な地域の 範囲を取り上げることで関心を 高める。 ・生徒が同じ地方、県の中に形式 地域、等質地域、機能地域を見 出すことができるように、様 々な指標による地域区分の例を 示す。(2)
4	・栃木県と福島県、それぞれの3つの地域区分を地図に示し、他の資料をもとに区分の理由と両県の違いを考える。 ・身近な地域を、部活動の地区大会の範囲、町内の自治会、町名区分の範囲などを例として、どのように区分されているか調べる。	
5	3 「日本地図を正しく描こうコンテスト」	(省 略)

(4) 結果の考察

この単元の学習では、「等質地域」「機能地域」等のやや難解な用語も理論的な内容の理解には必要であるとの考えからあえて扱った。地理学という学問における、基本的な理論のひとつを学習しているという説明のもとで、生徒は意欲的に様々な指標をもとに地域区分図を作成できた。事後アンケートでも、「自分の知識が広がった」と感じたり、「学ぶ価値のあるものを学習した」と感じたりした生徒が多かった。ここで学んだ知識を、この後の単元でくり返し活用する場を設定し、さらに学ぶ意義や楽しさを実感させようとい意図している。

2 事例2 ゆさぶりと学び方を意識した身近な地域の学習

(1) 題名 「地域の規模に応じた調査・身近な地域」

(2) 学ぶ楽しさを実感させるための中心的な工夫

本小単元の学習で意図した「ゆさぶり」とは、生徒が日常何気なく見たり利用していたりする身近な地域の事象を対象として、その位置（分布）には実は様々な意味があり、その位置に存在する理由が多角的に考えられることに気付かせ、知的好奇心や探求心を駆り立てることである。言い換えれば身の回りの地理的事象の存在について、学ぶべき価値を見いだし、追究しようとする「学びの気付き」を体験させることである。

「学び方」については、課題設定の方法を1時間かけて丁寧に指導することにより、他の单元でも活用できるような課題設定能力を身に付けさせることを意図した。

(3) 小单元計画と学ぶ楽しさを実感させるための工夫

時	学 習 内 容 ・ 活 動	・ 指 導 上 の 留 意 点
1	1 「宇都宮の特色を見つけよう」 ・ 市内の各地域ごとの人口の増減率を白地図に示し、気付いたことを発表する。 ・ 市の中心部について、日常生活体験から特色と思われることを発表し合い、意見をまとめる。	・ 作図により、市の中心部の人口のドーナツ化現象に気付かせる。(1) ・ JR宇都宮駅から大通り、オリオン通り周辺に焦点をしばり、空き店舗、空き事務所が目立っていること、宇都宮パルコ等の再開発地域が見られることを、生徒の生活体験から導き出す。
2	・ グループで、「2100分の1宇都宮」の地図から宇都宮環状道路周辺にあるものを調べ、農業・工業・商業・その他に分別する。 ・ 分別したものを発表し合い、環状道路周辺の特色と考えられるものをいくつかにまとめる。	・ グループで活動させることにより、より多くの事象を見出すことができるようにさせる。 ・ 全体的に見られるもの、分布の傾向が限られるものという視点も与え、課題づくりに結びつける。 ・ 固有の事象が発表されたときは、少し大きな種類に集約するよう助言する。
3	2 「学習課題を設定しよう」 ・ 学習課題を設定する方法について、教師の説明を聞く。 ・ 前時までまとめた市の中心部や少し周辺部の特色であると考えられることをテーマとして、学習課題づくりを行う。 ・ 自分たちの作った学習課題を解決できるような推論を考える。	・ 5W1Hをキーワードとして、課題の形式にしていくことを実例を示しながら説明した後、問答によって各々のキーワードの適切な使用法を理解させる。(3) ・ 5W1Hの使い方により、追求していく方向性が異なることを確認させる。(3) ・ 簡単に推論が立てられるものについては、その場で解決を図り、追究する価値のある適切な課題を吟味させる。(3)
4	3 「全体の学習課題を決定し、仮説を立てよう」 ・ 教師との問答により全体の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">福田屋はなぜ市の中心部から少し郊外へ移転したのか</div>	・ 宇都宮市の特色として中心部の空洞化と少し周辺の発展の2点を確認させる。 ・ 上記の2点を効果的に追究するために、福田屋の移転の事例を挙げ、課題を設定させる。(1) ・ 読図に関しては視野を広くもち、周囲の事象と関連させて長所・短所を考えるよう指導する。

5	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで福田屋がかつてあった場所と現在地について、その長所・短所を考え、発表し合う。 ・発表を聞き、2つの場所を比較して、解決に迫る仮説を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他グループの発表を参考にして、各々個人で仮説を考えさせる。 ・次時に備え、家庭で福田屋と東武についての聞き取り調査を行わせる。(3)
6	<ul style="list-style-type: none"> 「仮説を検証しよう」 ・家庭での聞き取り調査の結果をまとめる。 ・福田屋の副社長へのインタビューのVTRを視聴し、自分たちの仮説が正しいか検証する。 ・わかったこと、感想等を単元のまとめとして記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き取り調査の結果を挙手により簡単にまとめ、学級全体で集計すると、一般的な傾向がわかることに気付かせる。 ・インタビューの内容をメモさせ、各自の仮説の中で正しかったことや、足りなかったことをまとめさせる。(1) ・自己評価表を記入させることで、単元全体の自分の取り組みを振り返らせる。

(4) 結果の考察

「身近な地域」の学習では、ややもすると身近だから、普段親しんでいるからといった理由だけで興味・関心が高く、意欲的に活動する事が可能であろうと考えがちであるが、普段から身の回りの社会的事象と探求心を持って向き合っている生徒はそう多くはない。本実践では「ゆさぶり」によって、身近に存在する社会的事象に関しても知らないこと、考えもしなかったことが数多く存在することに気付かせ、確かな課題意識を持たせることにより、意欲的に仮説の立論を行うとともに充実した追究活動ができた。

また、本小単元で生徒が獲得した主な知識は、市の中心部のドーナツ化現象・空洞化、宇都宮環状道路周辺の開発と大型店の進出などの説明的知識である。それらのことから、「市街地の中心部は、地価の高騰やモータリゼーションの進行による交通渋滞や駐車場の不足など生活しにくい問題があり、人口のドーナツ化現象や空洞化が起こる。そのため郊外の幹線道路周辺の開発が進み大規模店の進出が見られる。」という程度の概念を生徒が自ら獲得することができたことは大きな成果であった。

3 事例3 学ぶ価値を実感させる都道府県の学習

(1) 題名 「北海道の特色を調べよう」

(2) 学ぶ楽しさを実感させるための中心的な工夫

本小単元の学習で実感させたい学ぶ価値とは、事例1で学習した「地域区分」の考え方であり、それを北海道の産業分布にあてはめることによって、その汎用性に気付かせ、学んだことの有用性を実感させる。北海道においては特に、農業の学習で地域区分の考え方を活用させ、工業の学習で習熟を図り、「地理学の初歩的な理論を活用して、自分で北海道の産業分布の法則を見出すことができた。」という実感を持たせたい。

(3) 小単元計画と学ぶ楽しさを実感させるための工夫

時	学 習 内 容 ・ 活 動	・ 指 導 上 の 留 意 点
1	1 「北海道の基礎知識」	(省 略)
	2 「農業の特色を調べよう」 ・ 農業のさかんな地域と主な産物を白地図に示す。	・ 農業地域として石狩平野、上川盆地、十勝平野、根釧台地は必ず記入させ、次の活動につなげる

2	<ul style="list-style-type: none"> ・産物や行われている農業の違いにより、北海道をいくつかの地域に区分する。 ・学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">北海道ではなぜ西は稲作，東は畑作・酪農がさかんなのだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・稲作と畑作に分かれる理由を予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本の地域区分」で学習した地域区分の考え方を想起させ、農業形態の違いを指標として区分させる。(2) ・生徒が分析した地域区分を集約し、北海道はおおまかに東西2つの農業地域に区分できることに気付かせる。 ・「身近な地域」で学習した課題設定の方法を想起させ、「西が稲作，東が畑作・酪農」であることをテーマに学習課題を設定させる。(3) ・稲の生育条件を確認させ、西にかたよる理由を予想させる。 ・地図帳をフルに活用させ、統計やテーマ地図等から夏の気温、日照時間、海流、土壌、海霧など多角的に要因を考えさせる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳、資料集等を活用し、課題を追究する。 ・まとめたことを、グループ内で発表しあい、結論をまとめる。 ・教師の補説を聞く。 	
4	<p>3「工業の特色を調べよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道の主な工業都市と、製品を白地図にしめす。 ・農業の学習成果を生かし、同様のパターンで課題設定、追究を行う。 ・個人で追究し、結果はレポートとして提出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の農業分布の把握、農業地域区分、課題設定、予想、追究、まとめ、の学習の流れを想起させ、北海道の工業都市の分布をテーマに、前時と同様の課題学習を展開させる。(2)(3)
5	4「観光と開発を調べよう」	(省 略)

(4) 結果の考察

農業の学習では、既習事項である地域区分の考え方を活用して分布の特色を明らかにさせたことから、ほとんどの生徒が円滑に課題学習を行うことができた。工業についても同様の学習パターンでレポート作成を行わせたが、工業都市の分布は農業分布よりも複雑であったため、地域区分が明確にできない生徒も見られた。事後アンケートからは、地理的事象の分布をとらえることについて「北海道が農業分布によって2つに区分できたことで、その後の学習がわかりやすく、なるほどと思った」「分布の傾向をとらえるという意味がわかった」などの意見が目についた。この単位では多くの生徒に、地理に特有の理論的な内容を活用する意義を気付かせることができたと考える。

4 事例4 学び方の習熟を図る都道府県の学習

(1) 題名 「栃木県の特色を調べよう」

(2) 学ぶ楽しさを実感させるための中心的な工夫

本小単元の学習では、ここまでの1年間で培ってきた課題学習の一連の流れを栃木県の学習で活用させ、課題学習の方法の定着、習熟を図る。生徒ひとりひとりに成就感を味わわせ、学ぶ楽しさを実感させるために、自分の興味・関心に沿ったテーマを選択させ、個別に課題学習に取り組ませるとともに、課題学習の方法の汎用性、有用性にも気付かせ、学ぶ価値を実感させることも意図した。

(3) 小単元計画と学ぶ楽しさを実感させるための工夫

時	学 習 内 容 ・ 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	1 「栃木県の特徴を見つけよう」 ・統計資料、地図帳を活用し、栃木県の特徴と考えられる物事をできるだけ数多く挙げる。 ・教師との問答を通して適切な課題学習のテーマをいくつか設定する。 ・各自の関心に沿ってテーマを一つ選択し、学習課題を設定する。	・都道府県レベルでの「特色」とはどのようなことかを最初に確認することで、追究につながるような事象を見いださせる。 ・これまでに学習した課題設定のしかたを想起させ、適切な学習課題を設定させる。(3) ・追究のテーマは下記の通り いちご 稲作 酪農 ゴルフ場 電気機器
2 3 4	2 「課題を追究し、レポートにまとめよう」 3 ・各自の学習課題について、これまで培ってきた課題学習の学習方法を活用し、追究、まとめを行う。 4	・インターネット上の役立つホームページを紹介し、活用させる。 ・課題学習が個別に成立するように、相談コーナーを設け個々の生徒の行き詰まり対策をきめ細かく行う。(3)
5	3 「追究結果を発表しよう」 ・各自がレポートにまとめたことを教室に掲示し、疑問点についての質疑応答を行う。 ・栃木県全体の特色を「ボブおじさん」に説明するシートを記入する。	・他のレポートの良い点を付箋紙に一言でかき、貼り付けさせることによって、成就感を実感させる。(3) ・全体のまとめをアメリカからやってきたボブおじさんに説明する形式で行い、個別課題学習の結果の共有化を図る。

(4) 結果の考察

これまで学習してきた課題学習の方法を活用させることで、栃木県の特徴をとらえ、そこから個別に課題を設定するまでの学習の流れは大変スムーズにできた。課題設定後の追究は個別に行ったが、総合的な学習の時間で培った情報収集（インターネットや文献資料の活用）の技能を生かして、効率的に追究する生徒が多く見られた。事後のアンケートでは、主体的に学習を進めることができたと考えている生徒が76%（4クラス160名の調査結果）にのぼり、成就感、達成感を実感させることができた。

5 事例5 学ぶ価値や自己有能感を実感させることを意図した世界の国々の学習

(1) 題名 「お隣の国・大韓民国」「世界をリードするアメリカ合衆国」

(2) 学ぶ楽しさを実感させるための中心的な工夫

この2つの小単元の学習では、学ぶ価値を実感させる方策として、産業の立地に焦点を当てる。農業分布の自然条件との関連、工業都市・地域の立地条件を中心に学習を進め、生徒ひとりひとりに産業立地の法則性を理解させることにより、自己有能感を味わわせ、学ぶ楽しさを実感させることをねらった。

(3) 小単元計画と学ぶ楽しさを実感させるための工夫

時	学 習 内 容 ・ 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	1 「アジア初のサッカーW杯はなぜ日韓共同で開催されたのだろう」	(省 略)

2 3	2「朝鮮半島の産業分布を調べ、その理由をつきとめよう」 ・稲作と畑作の分布、工業都市・地域の分布を白地図に示す。 ・分布の傾向を読み取り、分布の理由を調べたり考えたりする。	・畑作、稲作で地域を区分させ、地形や気候の違いとの関連を考えさせる。 ・工業地域は沿岸部にあることに気付かせ、日本との共通点を考えさせる。 ・上記2点をもとに産業の「立地」についての法則性を整理させる。(2)
4	3「日本と韓国の文化を比較しよう」	(省 略)
5	4「これからの日韓関係を考えよう」	(省 略)
1	1「アメリカの概要をとらえよう」 ・資料集、統計、地図帳を活用し、アメリカ合衆国の地形、歴史、貿易産物をワークシートにまとめる。 ・調べた結果から、アメリカ合衆国を一言で言い表す言葉を考える。	・様々な資料を活用させ、最終的には政治、経済、科学技術、軍事など多くの面で世界でも有数の実力があり、「世界をリードしている」国であるという特色をとらえさせる。
2	2「なぜアメリカ合衆国は世界をリードする国と呼ばれるのか」 ○世界でも有数の農業生産を挙げている理由を調べよう。 ・適地適作の農業区分と農業経営の特色を調べる。	・地域区分の考え方を活用してアメリカを農業の違いで2つに区分させ、その根拠を自然との関連から説明させる。(2) ・東部～中部の農業分布が緯線に沿っていることに気付かせ、自然条件との関連を導き出す。(2) ※ 適地適作を理解させる
3 4	○技術開発と工業生産で世界をリードする理由を調べよう。 ・主な工業の分布を調べ、それぞれの立地条件を原料の産地や輸送と関連づけて考える。 ・原料産地と関連が薄い工業の立地条件を調べる。	・最初に原料産地と結びついた鉄鋼や自動車、石油化学工業の立地を学習させた上で、IC工業や航空機産業の立地を問うことにより、生徒にゆさぶりをかけ、深く考えさせる。(2)(3)
5	3「人々の生活から見たアメリカ」	(省 略)
6	4「アメリカの問題点を調べよう」	(省 略)

(4) 結果の考察

大韓民国の学習では、農産物の分布と自然条件との関連、工業地域の位置と原料入手先、輸送方法などとの関連を取り扱った。その後、アメリカ合衆国でも農・工業の立地を重点的に扱うことで、生徒が自ら産業立地に関する基本的なことがら（農業における適地適作、工業における原料入手が容易な場所への立地）を発見することができた。その上で、その考えがあてはまらない産業（ICや航空機産業）の立地条件を考えさせるよう工夫したことで、生徒は少し困難な課題、やりがいのある課題にも意欲的に取り組むことができた。事後のアンケートでも、アメリカ合衆国の学習は楽しさや充実感を感じた学習として地理的分野の全単元中第2位であった。

6 事例6 既成の知識をゆさぶることによって学ぶ楽しさを実感させることを意図した「資源・産業から見た日本」の学習

(1) 題名 「日本の産業－農業の特色を調べよう－」

(2) 学ぶ楽しさを実感させるための中心的な工夫

この小単元の学習では、日本の農業分布を調べさせ、生徒の既成の知識とは違ったよすを示しているものを取り上げて課題化する。具体的には、冷涼な東北や北海道で本来は熱帯性の作物である米の栽培が盛んであり、温暖で米作りに適していそうな南西日本では、野菜栽培や畜産がさかんになってきていることをとらえさせる。そのことで生徒の既成概念をゆさぶり、確かな課題意識を持たせ、意欲的に追究させることを意図した。

(3) 小単元計画と学ぶ楽しさを実感させるための工夫

時	学 習 活 動 ・ 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1	<p>1 「日本の農業分布図を作成し、その傾向を読み取ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の農業の分布図を統計資料を活用して作成する。 稲作・畑作物（高原野菜 夏野菜） 果樹・酪農・畜産 作成した分布図からその特徴（分布の傾向）を読みとり、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県単位の生産量で、上位5位まで（稲作は8位まで）の分布図を、グループ内で分担して作成させる。 分布の特徴（分布の傾向）については、北海道の学習を参考にさせ、作物の違いによる日本の農業地域を大まかにとらえさせる。(2)
2	<p>2 「農業分布について仮説を考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時にとらえた各産業分布の地域的差異をもとに課題を設定する。 簡単に説明のつく課題はすぐに解決を図り、追究する価値のある課題を吟味する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>日本ではなぜ北で稲作・南で畑作が盛んなのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 小集団で課題解決に向けた仮説を話し合い、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 本来、熱帯性の作物である米の栽培が、日本では東北や北海道でさかんなことに着目させる。 日本では北で稲作が盛んであるが、隣国である朝鮮半島では南部が稲作地域であることに着目させる。 <p>上記の2つの点から生徒に疑問を持たせ、確かな課題意識や追究意欲を高める。(1)</p>
3	<p>3 「仮説を検証し、課題を解決しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> 配布された資料を活用し、前時に自分たちが立てた仮説の妥当性を検証する。 検証結果を発表し合い、解決しきれなかった課題できなかった課題について、教師の補足説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 効率的に学習を進める必要性から、あらかじめ教師が課題追究に必要な資料を準備しておく。 <p>（積雪と用水、稲作に関する国の政策、東北地方の気候、高知平野の二期作の衰退と促成栽培など）</p>

(4) 結果の考察

この小単元の学習は、東北日本で盛んな稲作、かつての2期作地域だった高知平野の変化等からゆさぶりをかけたことで、課題設定がことのほか円滑にでき、確かな課題意識を持たせることができた。その後、追究に入ったが、分布の理由を多角的に追究させたい意図が強すぎ、資料の難易度と量に問題があったことは否めなかった。やや難易度が高かったために授業の評価は、資料をよく読み込むことができた生徒にとっては「分布の理由が謎解きのようで面白く、これまで気がつかなかった稲作の条件がよくわかった。」という生徒も見られた反面、内容の難しさを指摘している生徒も少なくなかった。

7 事例7 学習方法の工夫により学ぶ楽しさを実感させることを意図した「地域の結びつきから見た日本」の学習

(1) 題名 「地域の結びつきから見た日本ー東北地方の変化を調べようー」

(2) 学ぶ楽しさを実感させるための中心的な工夫

本小単元では、まず東北地方の交通網の発達を全体で確認し、それが地域に与えた影響をジグソー学習を取り入れた選択課題学習で調べさせた。次にそれを活用する場として東北地方の今後を考えるランク付けの討論を行った。討論は選択課題学習で培われた知識を活用する場であるとともに、自分の意見を主張したり他の意見を聞いたりする場であり、それを設けることにより、他と学びあうことの楽しさや討論による充実感を実感させることを意図した。

(3) 小単元計画と学ぶ楽しさを実感させるための工夫

時	学 習 内 容 ・ 活 動	・ 指導上の留意点 ○指導の工夫
1	「東北地方では近年どのような変化が見られるだろう」 ・ 高速交通網を白地図に記入し、交通網の発達によって、どのような変化が見られるか予想する。 ・ 個別課題を選択する。	・ 東北、秋田、山形新幹線、東北自動車道、各空港の位置を記入させ、近年、高速交通網が整備されていることに気付かせる。 ・ 時間距離の短縮により、どんな変化が起こるか予想させる。
2 3	「課題を追究し、レポートにまとめよう」 ・ 下記の課題を個人で追究する。 (1) 特色ある伝統工業 (2) 祭りと観光開発 (3) 工業と都市の発達 (4) さかんな稲作 (5) さかんな果樹栽培	・ 個別に追究させる5つの課題を、グループの中で個人が選択し、追究する。 ・ 資料は教師側でも準備しておく。 ・ ジグソー学習により、他と協力して課題の追究を行わせる。(3)
4	「追究結果を発表し、東北地方のこれからを考えよう」 ・ グループ内で追究結果を発表する。 ・ 交通網の発達が見られる東北地方において、今後重要だと思われる事項を考え、発表する。	・ レポート作成や発表について、下記の留意点を示す。(3) 視覚的にわかる分布の表現 絵・図表・グラフの効果的な利用 事実の説明とその成因を分けて表現 ・ KJ法を活用し、各グループからでた項目を7つにまとめる。
5	「東北地方のこれからベスト7を考えよう」 ・ グループごとに前時にだされた7つの項目に順位をつけ、その理由を考える。 ・ 全体で意見を述べあい、最終的な順位を決定する。	・ ランク付け学習 一つのグループの順位をもとに、他グループは自分たちの考えに近づくように、根拠を述べながら順位を変えるよう主張させる。(3) 教師は、生徒の発言を聞き、根拠が明確ならば順位を適宜変動させる。

4 授業の考察

これまでの学習の積み重ねもあって、個別の課題追究については意欲的な生徒が多いが、特に十分な資料に基づいて一つのことを深く調べる過程や、結果として新しい知識が増えることに楽しさや充実感を感じていたようである。人に説明しなければならないという外的な要因も、学習に対する意欲付けになっていた。また、生徒は自分の意見が認められる

こと、他との関わりの中で自分の考えを深めていくことに楽しさや充実感を感じている。積極的に発言できなかった生徒においても、他の発言の中に新たな視点や驚きを見いだし、楽しく学習が成立していた点も読み取ることができた。

討論を取り入れた学習には様々な形態がある。今後は他の討論活動も単元の指導計画に位置付けられるよう、単元の学習内容にふさわしい討論活動を吟味していくことが課題となる。

3 本研究実践の成果と課題

2年間の地理的分野における授業実践の主な取り組みを述べてきたが、以上のような実践によって、生徒が学ぶ楽しさを実感し、学習意欲が高まったのかどうかを検証するためにアンケートを行った。内容は、地理的分野の学習の好き嫌いについて生徒が5段階の自己評価をする簡単なものであるが、現在の第2学年の生徒が入学した時に同様の調査を実施していたため、2年間の地理学習を経た後の変容が表出すると考えた。

【アンケート内容と集計結果（調査対象 2クラス 合計79人）】

○社会科の中でも地理の学習は・・・

	入学時	2年終了時	増 減
ア とても好き	5 人	10 人	+ 5 人
イ まあ好き	23	28	+ 5
ウ ふつう	32	29	- 3
エ どちらかという嫌い	19	12	- 7
オ 嫌いといえる	1	0	- 1

○個人内の回答の変化

	人 (%)
向上した	33 (42%)
変化なし	28 (35%)
下降した	18 (23%)

(1) 研究の成果

アンケートの結果を見ると、ア・イの項目（プラスの評価）の合計が入学時28人（35%）から2年終了時38人（48%）へと増加している。また、エ・オの項目（マイナスの評価）の合計が入学時20人（25%）から2年終了時12人（15%）へと減少している。個人内の入学時と2年終了時の回答の変化を集計した結果からは、42%の生徒に向上が見られた。このような生徒の意識の変容が、すべてこれまでの地理的分野の実践によってもたらされたとは断言できないが、たこれまでの本研究における授業実践を多くの生徒が好意的に受け止めていることが読み取れる。以上のことから学ぶ楽しさを実感し、意欲を持って地理学習に取り組む生徒の育成に関して、一定の成果があったと考えられる。

(2) 今後の課題

アンケートにおいて、各項目を選択した理由も記述させたが、エを選択した生徒の回答には「覚えることが苦手だから」「テストで点が取れないから」「学習内容に興味がないから」といったものが多かった。授業で身に付けた社会的事象に対する見方・考え方、学び方等に関する能力を問うようなテストの改善を図るとともに、関心を高めるために不断の努力で授業改善を実践し続けていくことこそ重要かつ、不可欠なことである。

- 【参考文献】 社会科地理教育講座1 地理教育の理論 明治図書 1984年 5月
 社会科固有の授業理論30の提言 岩田一彦 明治図書 2001年10月
 学習意欲の心理学 桜井茂男 誠信書房 2001年 1月